

●数年来のバター不足問題についての質問状

数年前から続いている「バター不足問題」ですが、業界のみならず一般消費者にもスーパーや量販店からの販売個数制限などの影響が出ている状況です。緊急輸入での問題解決を図るといっていますが、一時的にしのげるとしても今後の見通しは不透明と言わざるをえません。

これまで使い慣れた「国産バター」への執着は、パティシエのみならず、料理人や愛好家、一般消費者まで根深いものと考えております。酪農家の廃業やTPP問題解決の難題などもあり、ますます我々の不安は増すばかりです。

「バターがなければ代替油脂で」という解決策ももちろん考えられますが、伝統的な菓子や料理には不可欠なものであり、次世代に続く職人の「技術向上」や「問題意識」にも大きく影響を与えてしまうものと懸念致しております。

そこで、国産バターの置かれた現状を知り、今後の傾向と対策を知るためにも、メー

カー様や関係団体様のご見解をお聞かせ願いたいと存じます。ご多用のところ大変ご面倒をお掛け致しますが、ご担当者様からのご回答を頂ければありがたく存じます。宜しくお願い申し上げます。

① 国産バター不足の根本的な原因はなんですか？

(これまでの生乳を牛乳、チーズ、バターに使用する割合の変化や10年来の生産状況、需要と供給の関係などを示した具体的な資料をお願い致します)

*グラフや可視化された数値のなるべく分かりやすいものでお願い致します。

② 今後のバター生産の見通しをどのように考えていらっしゃいますか？

(増産は無理でも現状維持、残念ですが減産など、率直にお願い致します)

③ 輸入品のバターの利点や問題点などをお示しいただけますか？

(価格や安定供給に向けた具体的な対策などをお願い致します)

④ 国内状況を踏まえTPPなどの国際的な状況をどのように捉えていらっしゃいますか？

(将来的に国内に及ぼす影響や対策などをお願い致します)

⑤ 国産バター不足を解決するには何が必要ですか？

(これまでの農業・酪農政策の問題を含め具体的に前向きな解決策をお聞かせ下さい)

*

以上の内容で質問を行って得られた回答は、**一般社団法人Jミルクと南日本酪農協同株式会社、タカナシ乳業株式会社、株式会社明治**(回答順)の1団体と3社のみ。

他9社については、他社との兼ね合いがあるとか、自社のみの見解は差し控えたいとか、業務用バターは取り扱っていないとか数々の理由で回答は得られず、この問題の根底にある根深い何かを感じずにはいられない印象を得たものとなった(一般社団法人Jミルクについては、小誌の発刊進行締切間際の2015年11月16日までの状況を回答して頂いた)。

バター不足問題質問状の送付先一覧

- ① 一般社団法人Jミルク (宮原道夫会長 / 2015年11月16日回答)
〒104・0045 東京都中央区築地4・7・1 築地三井ビル5階
- ② 株式会社明治 (川村和夫代表取締役社長 / 2015年10月9日回答)
〒136・8908 東京都江東区新砂1・2・10
- ③ 森永乳業株式会社 (宮原道夫代表取締役社長)
〒108・0014 東京都港区芝5・33・1
- ④ 雪印メグミルク株式会社 (西尾啓治代表取締役社長)
〒160・0003 東京都新宿区本塩町13
- ⑤ カルピス株式会社 (岸上克彦代表取締役社長)
〒150・0022 東京都渋谷区恵比寿南2・4・1
- ⑥ タカナシ乳業株式会社 (高梨信芳代表取締役社長 / 2015年9月18日回答)
〒241・0023 神奈川県横浜市旭区本宿町5

- ⑦ 中沢乳業株式会社 (中澤謙次代表取締役社長 / 2015・0004 東京都港区新橋2・4・7
- ⑧ 小岩井乳業株式会社 (堀口英樹代表取締役社長 / 20164・0001 東京都中野区中野4・10

- ・2中野セントラルパークサウス19階

- ⑨ よつ葉乳業株式会社 (有田真代表取締役社長 / 2060・0004 札幌市中央区北4条西1

- 丁目北農ビル12階

- ⑩ 北海道乳業株式会社 (田島久吉代表取締役社長 / 2041・0812 北海道函館市昭和3・6

- ・6

- ⑪ 新札幌乳業株式会社 (竹内久夫代表取締役社長 / 2004・0004 札幌市厚別区厚別東4条

- 1・1・7

- ⑫ 南日本酪農協同株式会社 (加納昭代表取締役社長 / 2015年9月17日回答)

- 〒885・0073 宮崎県都城市姫城町32街区3号

- ⑬ 大乳業農業協同組合 (幅田信一郎代表理事 組合長)

- 〒689・2393 鳥取県東伯郡琴浦町大字保37・1

(*黒丸数字の団体・企業から回答が寄せられた)

① 国産バター不足の根本的な原因はなんですか？

(これまでの生乳を牛乳、チーズ、バターに使用する割合の変化や10年来の生産状況、需要と供給の関係などを示した具体的な資料をお願い致します)
*グラフや可視化された数値のなるべく分かりやすいものでお願い致します。

(実際にグラフでの回答も頂いたが、グラフについては、最後に一般社団法人Jミルクによる最新版のグラフを掲載することとする(173ページ))

●南日本酪農協同株式会社の回答

国内の飲用を含む乳製品需要量に見合う生乳生産量の不足によるもの。

弊社には国内生産状況や需要と供給に関する資料はないことから、参考資料として以下を添付致します。

*農林水産省畜産部ホームページ内「最近の牛乳乳製品をめぐる情勢について」

<http://www.maff.go.jp/j/chikusan/>